

東京コミュニティパワーバンク

キーワード：コミュニティ金融 連続講演会

活動地域：東京都全域

NPOバンクとは：

地域社会や福祉、環境保全のための活動を行うNPOや個人などに融資することを目的に設立された小規模の非営利バンクのこと。本団体もこのNPOバンクの一つである。運営の特徴は、主旨に賛同する市民やNPOが組合員となり、1口数万円単位の出資を行い、それを原資にNPOや個人に低利（1～3%程度）で融資する。既存の金融機関では預金の使途が不明確であるのに対し、NPOバンクでは融資先が出資者に対して公開される場合が多く、出資者の意思に沿って資金が運用されるなど両者の間に「顔の見える」信頼関係が築かれることが大きな特徴。これまで貸し倒れはほとんどないという。



団体・活動概要：

生活クラブ生協の活動が母体となり、地域の課題を地域住民で解決しようと様々な活動を展開してきました。しかし、財政基盤が脆弱なためになかなか事業が進展しませんでした。そこで、市民による自主的な財源をつくり、地域で資金を循環させ、さらにそれを社会的機能として位置づけようと当団体が設立されました。理事会メンバーは、生協職員のほか、銀行員、福祉関係者、税理士等と多岐にわたっています。システムは、市民や団体が出資をして会員となり、同時に融資を受けることができる会員制で、融資対象者は東京都内に限定しています。貸金業として登録して2004年8月に融資を開始しました。融資の対象は公共性があり社会的に有用な市民事業で、融資は出資金の10倍まで、1千万円を上限に行っています。融資に際しては、専門家と出資者で構成される市民審査会で審査を行い、開かれた形での公平な審査を行うようにしています。



東京コミュニティパワーバンク

設立：2003年 メンバー総数：497名

代表者：坪井眞里

連絡担当者：奥田裕之

連絡先：〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 A S Kビル501

TEL：03-3200-9270

FAX：03-3200-9250

E-mail：community-fund@r2.dion.ne.jp

ホームページ：http://www.h7.dion.ne.jp/~fund/

1 団体の目的と経緯

目的：地域の資金循環

2003年9月に、東京コミュニティパワーバンク(東京CPB)は設立されました。

日本中のあちこちで市民による様々な活動が生まれ、地域を変えつつありますが、NPOをはじめとした市民事業の財政基盤はきわめて脆弱であると言わざるを得ません。そのため市民による自主的な財源を作り上げる事が必要不可欠であると考え、活動しています。

市民自身が地域社会に貢献する事業を応援し(出資し)、かつそれを使いこなす(融資を受ける)ことで、地域の資金循環を行い、出資する人と融資を受ける人が“まちの作り手”として地域社会に貢献する事を目的としています

同時に中間支援組織として、NPO法人コミュニティファンド・まち未来を設立し、連携して活動をしていくことで、人材育成・相談・助成の各事業を行い、新しい形の市民事業への支援を模索しています。

2006年3月現在で、出資金総額は9,250万円、出資者は491(個人・団体)、現在までの融資総額は2,360万円となっています。

これまでに融資を行ってきた対象事業は、乳幼児在宅育児者支援事業、高齢者グループ・ハウス、コミュニティカフェ、環境のためのリユースショップ、

スポーツクラブによる区との共同事業など幅広い分野にわたっています。融資対象については、社会性があり事業として成り立っていれば、出来るだけ多くの団体に融資をしていきたいと考えていますが、実際は、事業性の部分で弱いNPOが多く、また東京CPBの存在がまだ社会的に認知されていないこともあり、当初の予定に比べて融資案件が少なくなっています。

2 活動の内容

連続講演会の開催

今回の助成事業は、「地域の共生とコミュニティ金融を探る連続講演会の開催」を対象としました。講演会については助成を受ける前に2回行っていましたが、助成を受けることによって全6回の連続した講演会にして全体を記録し、一般に対しての講演やアピールだけでなく、今後の活動に向けた課題整理を目的としました。

助成時期については、第3回～第6回を対象としていましたが、助成金を使ってその前に行った2回の講演会についても資料を作成し、全6回の連続した講演会として以下のような組み立てを行いました。また、助成金を受けたことをきっかけに、「国際青年環境NGO A SEED JAPAN」「NPO法人まちづくり情報センターかながわ(アリスセンター)」に共同開催を呼びかけました。そのことでこれまでになかったネットワークが広がり、講座をより多彩に内容にすることができました。



特) コミュニティファンド・まち未来と共同活動のイメージ図

日時	内容
2004 12.5	<p>第1回：「イギリスのコミュニティ金融最新事情」</p> <p>講師：ナオミ・キングスレイ氏（ロンドン・リビルディング・ソサエティ代表取締役）</p> <p>内容：イギリスでのコミュニティ金融の歴史、これまでの発展の経緯とそのための政府を中心とした支援体制、現在の最新事情などを伺う中から、日本でのコミュニティ金融あり方を探り、今後の活動に対して応用できる要素を考察した。特に Small is Bankable のように、小さい規模の団体こそが金融機関の対象であるという発見があった。</p> <p>また貴重な講演内容について、助成金を使ってテープ起しを行った。</p>
2005 2.20	<p>第2回：「19世紀イギリスの歴史から見た共同体金融」</p> <p>「生活クラブ生活協同組合から、東京 CPB / コミュニティファンド・まち未来へ」</p> <p>講師：金岡良太郎氏（東京 CPB 理事、エコバンク著者） 庄妙子氏（東京 CPB 理事、生活クラブ生活協同組合・東京理事）</p> <p>内容：現在のコミュニティ金融（共同体金融）を理解するためには、19世紀イギリスの社会運動・社会思想を知る必要があるため、その分野に詳しい金岡氏から mutual fund などが現在にどうつながっているのか、など伺った。</p> <p>また東京 CPB がなぜ構想され活動を行うことになったのか、立ち上げに関った庄氏より説明を受けた。</p> <p>これについても、助成金でテープ起しを行った。</p>
2005 6.12	<p>第3回：「NPOバンクから見た"コミュニティビジネス"とは」</p> <p>講師：田中優氏（未来バンク事業組合理事長） 金岡良太郎氏（東京 CPB 理事、エコバンク著者） 石塚貢子氏（NPO 法人まちづくり情報センターかながわ）</p> <p>内容：アフリカでマイクロファイナンスを行った経験を持つ、石塚氏をコーディネーターに、NPOバンクが融資する「コミュニティビジネス」とは何か、またその実際はどのようになっているのか、未来バンクで10年間にわたって市民事業に融資をしてきた田中氏と、アメリカとイギリスで実際に融資をしてきた経験を持つ金岡氏にお話を伺った。</p> <p>その中で、借り手が予想以上に少ないのではないかと、一方で融資申請金額の大きい対象が増えてきているなどの課題を出すことができた。</p>



連続講演会の様子 1



連続講演会の様子 2

日時	内容
2005 9.23	<p>第4回：「コミュニティビジネス、ソーシャルベンチャーとNPOバンク」 講師：奈良由貴氏（足元から地球温暖化を考える市民ネットエドがわ代表） 影山知明氏（ウイルクピタルマネージメント株式会社勤務）</p> <p>内容：コミュニティビジネス（市民事業）を実際に行っている奈良氏から具体的な事業内容と、NPOバンクからどのように融資を受けたのかなどについてのお話を伺った。その中には新しいマイクロファイナンスの可能性について、新しい示唆などがあった。</p> <p>また「ソーシャルベンチャー」と呼ばれる分野について詳しい影山氏に、その具体例と、コミュニティビジネスとの違いについてのお話を伺い、最後にNPOバンクに対しての提言を受けた。</p>
2006 2.26	<p>第5回：「地域金融機関は、社会的事業を支援できるか」 講師：法橋聡氏（近畿労働金庫 地域共生推進センター長） 長島剛氏（多摩信用金庫 価値創造事業部主任調査役） 田辺有輝（国際青年環境 NGO A SEED JAPAN）</p> <p>内容：アシードジャパンが昨年度行った「エコ貯金キャンペーン」（社会的な活動を行っている金融機関預金への預け替えキャンペーン）を受けて、CSRについて先進的な取り組み等を進められている、金融機関の方をお迎えし、地域金融機関で現在行われている社会的事業への支援の内容について伺い、また地域金融機関とNPOバンクの連携の可能性などについて論議した。</p>
2006 3.12	<p>第6回：「エンデから未来へ ～NPOバンクは、どんな未来を展望できるか～」 講師：大矢さよ子氏（特定非営利活動法人 しんぐるまざーずふぉーらむ理事） 岸本幸子氏（特定非営利活動法人 パブリックリソースセンター事務局長） 坪井眞里氏（東京コミュニティパワーバンク理事長） 村山純子氏（『エンデの遺言』執筆者、映像ディレクター） 山口郁子氏（中央労働金庫 営業推進部 NPO 推進次長） 湯浅誠氏（特定非営利活動法人 自立生活サポートセンターもやい事務局長）</p> <p>内容：市民が根源からお金を問い直し、NPOバンクが活発になっていくきっかけになった、NHKテレビ『エンデの遺言』のディレクターで執筆者のお一人である村山純子さんをはじめとして、実際にお金を必要としているNPO活動実践者の方々、金融機関として実際にNPOへ融資を行っている方、大きな枠組みでNPO支援を捉えている方、など多彩な分野の皆さんをパネラーに、当日の参加者も交えたディスカッション方式で「私たちの作っていく今後」を展望した。</p> <p>*この内容については、まだテーブル起しを行っていません。6月の総会までに助成金の範囲外で行う予定です。</p>



連続講演会の様子 3



連続講演会の様子 4

3 活動の成果

講演会開催による知識の蓄積

今後の市民金融のあり方を考えた場合、外国の先行事例や共同体の考え方を学習すること、実際に融資を行う対象を考察し調査すること、一般の金融機関や社会的な新しい動きを知るなどから、新たな日本の共同体的な金融のための基礎的な知識を積み上げることが不可欠です。そのため今回の助成を受け、連続した講演会を開催して学習を重ねることで、多様な視点で知識の蓄積を得ることができました。

講演会についてはテープ起しを行いました（第1回から第5回まで終了、第6回については助成金外として6月総会までに完成予定）、テープ起しをしたものは今後の参考資料とし、また多くの市民と共有することを目的に、06年度総会以降に助成金外で編集・印刷を行い、販売をしていく予定です。

また講座・学習会を通じて、同様の考えを持っている団体とのネットワークを作ることも目的としていましたが、A S J、アリスセンターとの共同事業から始まったこの動きと、「投資サービス法」「改正証券取引法」という問題によって起こった動きが重なることで、ネットワークが大きく発展し、12月10日、11日に200人を超える人数が集まって行われた「第2回全国NPOバンクフォーラム」を開催するまでになりました。

それまでの連続講演会のテープ起し資料については、このフォーラムの企画の資料としても活用しました。また連続講演会を開催した東京C P B、A S J、アリスセンターのメンバーが、フォーラムの実行委員会メンバーを主体的に形成し、事務局についても担うことになりました。

これまでのNPOバンクは、横のつながりがあまりなかったのですが、現在は「全国NPOバンク連絡会」に発展し、市民金融に関する多くの専門家や市

民が集うようになりました。今回の助成金によって呼びかけられ形成された新しいネットワークも、この動きに大きく寄与しています。

当初はこの連続講演会の最終回については、12月にフォーラムを開催する予定でしたが、上記の動きによって予定を変え、最後の2回をNPOバンクフォーラムを受けた内容とする事としました。このNPOバンクフォーラムを開催することによって、予想以上に大きな動きと、総合的な知識を得ることができました。

4 活動資金

(1) 助成活動における活動資金のうち、助成金以外の財源の内訳とその割合

助成金対象としての連続講演会については、事務局経費以外は助成金の中で行うことができました。しかし今回の助成活動は連続講演会を行うことから、全国NPOバンクフォーラムの企画運営やその他のネットワーク形成にも発展していったため、それらの部分については、業務ベースに加えてボランティアベースで行うことで財源の不足をカバーしています。

(2) 助成期間終了後の活動資金確保の見通しとその方策

連続講演会については、当初の予定通り全6回で終了しました。今後このような活動を行う場合には、また別途財源を探す必要があると思われるのですが、ただし今回の目的については、ほぼ達成できたので、06年度には予定していません。

また今回の講演録については、300円程度で販売をすることで、活動財源の一部として活用することを予定しています。



第2回全国NPOバンクフォーラムの様子 1



第2回全国NPOバンクフォーラムの様子 2

5 課題

融資の対象となる事業性のあるNPOが少ない
融資以外の支援の必要性

現在団体として抱えている最も大きな課題は、融資を行うことができるNPO団体が少ないことです。このことは、連続講演会の第3回で日本のNPOや市民事業の現状について議論した際にも挙げられていました。アメリカやイギリスの場合には、政策的支援（アメリカ）や財源的支援（イギリス）などの外的要因がNPOを発展させた大きな要因でしたが、現在の所、日本ではそのような動きは見られません。

一方で、実際のNPOや市民事業の多くは活動分野の専門性は高いものの、経営や運営については、あまりスキルを持っていないことが多く、また財政的に厳しい団体が多いため、単に「融資」を行うことが問題の解決にならないケースも見られます。

このような状況の中で、NPOや市民事業を発展させていくためには、「融資」だけではなく「助成」や「寄付」を組み合わせること、支援を行う専門家やボランティアなどの人的資源を確保するためのネットワークを作ること、運営や経営をするための教育を安く簡単に受けられるような環境を作り出すこと、など多方面からの支援が欠かせないと考え

られます。

昨年度できた「全国NPOバンク連絡会」などは、その一つのあり方として非常に有意義なものだと思われれます。このような新しいネットワークが出来ることで、NPOバンクも融資ができる団体が増えていく環境ができてくるのではないかと予想しています。

NPOバンクは、市民からの出資で成り立っています。その「出資」の部分については、多くのNPOバンクで増加傾向にあり、お金を社会的なことに使いたいという市民の数は少しずつ増えていることが分かります。

また05年度に新たに3つが加わり、現在NPOバン

クは全国で9つとなりました。日本各地で、また新たなNPOバンクを生み出す動きが見られます。NPOを取り巻く土壌は、確実に広がり、豊かになっていると考えられます。実際にNPOを支援していこう、またNPOで事業を始めようという動きが広がっている今、多くの課題はありますが、様々な力をネットワークングすることで何とか解決していくことができるのではないかと考えています。

6 今後の展望

財政基盤の確立

今後の東京CPBについては、まず何よりも融資件数を重ねることで融資の



第2回全国NPOバンクフォーラム報告書

キャリアを積み、東京CPB自体の経営の財政基盤を確立することが重要です。

一方で、融資をするべきNPO側の現状から、融資だけでは問題解決にならないことが分かってきました。融資、助成、寄付などをどのようにマッチングしていくのか、また特に運営面・経営面での人的支援（財務、経営手法、ネットワークなど）をどう支援できるのか、それらのために必要な専門家集団や助成団体などとの新しいネットワークはどうあるべきなのか、ということが次の課題として見出されてきています。

今後は、確実な融資業務を行いつつ、NPO分野全体の力量をアップするための、様々な手段の検討と開発が東京CPBの大きな目標です。